

文京区小石川地区における 消防団活動への貢献

ASA小石川 所長 枇杷阪秀明

地域の防災リーダーとして 防災意識の向上に努め 地域の消火活動に貢献

●実施期間

昭和50年～

●実施地域

東京都文京区小石川地区

●活動概要

ASA小石川所長の枇杷阪秀明さんは昭和50年から、34年にわたり小石川消防団に所属し、消防活動に従事してきた。この実績により、平成20年に第10代小石川消防団長に任命され、就任した。

「自分たちの町は自分で守る」をモットーに、地元の消防署と連携。特に震災時は直ちに活動できる地域の防災リーダーとして、訓練及び防災意識の向上に励んでいる。その業績が認められ、21年2月には、総務省消防庁長官賞が贈られた。

*

枇杷阪秀明（びわさか・ひであき）



消防団合同点検



合同点検一斉放水



地域密着型イベント

YC長久手 所長 金森幸男

地域密着のイベント実施 地域住民に喜ばれ 読者との交流深まる

●実施期間

平成20年4月～

●実施地域

愛知県愛知郡長久手町

●活動概要

愛知県のYC 長久手所長・金森幸男さんは、地域に密着した新聞販売所であることをPRするため、読者との交流を深めるイベントを開催している。

平成20年4月、21年4月と2年続けて、長久手町の新入学児童に向け、「折り紙セット」と「防犯 & 交通安全」チラシを寄贈。5月には、長久手町内にあるショッピングセンターで「よみうり朝市」を開催し、野菜を安価で提供して地域の住民に喜ばれた。このほか講演会、映画上映会、ミニライブなど地域に密着したイベントを実施している。

*

金森幸男（かなもり・ゆきお）

名古屋 YC長久手（金森幸男所長）

講演会、上映会、ライブ開催

新しい仕掛けで読者に刺激

読者の喜びの声とス
タッフの充実感

「読者の喜びの声とスタッフの充実感」

「読者の喜びの声とスタッフの充実感」

新聞情報 平成20年9月27日付



折り紙セットなどを青山教育長（左）へ贈呈する金森所長（中央）と榎原店長

新入学児童に折り紙セットを寄贈
YC長久手（愛知）

名古屋北地区のYC長久手の金森幸男所長は08年4月4日、長久手町教育委員会へ、70枚入りの「折り紙セット」600個と「防犯&交通安全」のチラシ3500部を寄贈した。

YC長久手の区域内に08年4月、「市が洞小学校」が新設された。これを期に、YCで何かできないかと同教育委員会に相談、折り紙寄贈の提案を受け、同町にある全小学校（6校）へ入学する新入学児童全員に折り紙を贈呈することになった。

青山安宏・同町教育長は「折り紙は日本の文化。子どもたちが集中力を高めるには最もいい教材です」と語り謝辞を述べた。金森所長は「これからも地域の皆さんに喜ばれる活動が続けたい」と語った。

「YC防犯活動事例集11」 平成21年1月1日発行（読売新聞販売局発行）

よみうり朝市 新聞の付加価値で足りない分は自分たちで用意する

YC長久手（金森幸男所長） 購読料支払いにこ運んだ読者に



愛知 YC長手（金森幸男所長）

「よみうり朝市」は、読者の購読料に足りない分は自分たちで用意する。読者の購読料に足りない分は自分たちで用意する。読者の購読料に足りない分は自分たちで用意する。

新聞情報 平成21年5月30日付

「よみうり朝市」開催を呼びかけるチラシ

★イベント情報★

From 読売センター長久手

イベント・デー 5/22(金) 5/23(土)

アピタ長久手店内(地下1階) フルーツバーラー

今月のイベントは KOBOWA様

新聞代金をYC長久手まで ご持参いただくだけで、お返しします。

★イベント情報★

From 読売センター長久手

イベント・デー 6/20(土) 6/21(日)

アピタ長久手店内(地下1階) フルーツバーラー

今月のイベントは KOBOWA様

新聞代金をYC長久手まで ご持参いただくだけで、お返しします。

★イベント情報★

From 読売センター長久手

イベント・デー 7/25(土) 7/26(日)

アピタ長久手店内(地下1階) フルーツバーラー

今月のイベントは KOBOWA様

新聞代金をYC長久手まで ご持参いただくだけで、お返しします。

★イベント情報★

From 読売センター長久手

イベント・デー 8/22(金) 8/23(土)

アピタ長久手店内(地下1階) フルーツバーラー

今月のイベントは KOBOWA様

新聞代金をYC長久手まで ご持参いただくだけで、お返しします。

グラウンドゴルフで地域貢献!! 健康増進、地域の和を広げる

北國新聞北国会羽咋支部

年代問わず楽しめるスポーツを通じ 地域活性化に寄与

●実施期間

平成11年11月7日～年1回開催

●実施地域

石川県羽咋市、羽咋郡

●活動概要

北國新聞北国会羽咋支部では、支部会員から募った寄付金をもとに、平成11年11月から、地域住民との融和と交流を目的として、グラウンドゴルフ大会を実施している。

羽咋市と羽咋郡で、年に1回開催。今年9月22日の大会で11回目を迎えた。約400人が参加するこの大会は、能登地区で最も大きい規模のグラウンドゴルフ大会として定着している。年々高齢化が進んでいる能登地区で、子どもから高齢者まで幅広く楽しめるグラウンドゴルフという生涯スポーツを通じ、地域活性化に貢献している。

*

北國新聞北国会羽咋支部＝石川県羽咋市、羽咋郡の北國新聞系統の24販売所で組織。堀辺武雄（ほりべ・たけお）支部長。

■グラウンドゴルフ大会年度別開催状況

回	開催日	会場	参加人数
1	平成11.11.7	羽咋郡志賀町 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	350
2	〃 12.11.5	〃 荒木ヶ丘山村広場グラウンドゴルフ場	360
3	〃 13.9.30	〃 荒木ヶ丘山村広場グラウンドゴルフ場	360
4	〃 14.9.29	〃 荒木ヶ丘山村広場グラウンドゴルフ場	230
5	〃 15.9.28	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	400
6	〃 16.9.19	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	400
7	〃 17.9.18	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	400
8	〃 18.9.17	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	350
9	〃 19.9.16	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	300
10	〃 20.9.21	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	300
11	〃 21.9.22	〃 増穂浦林間広場グラウンドゴルフ場	230
合 計			3,680



第11回大会での団体優秀チームと個人の上位入賞者（平成21年9月22日）



第11回大会の様子

■読者投稿欄より

グラウンドゴルフの楽しみ
高木英子 65歳

◇町健康づくり推進員
となつて七年余りたちます。六十歳を過ぎてからグラウンドゴルフの面白さを知りました。「また行ってこなかね」を合言葉に近所のお友達を誘う。いつもの場所です。着男女、みんな顔なじみである。今日、それは、願いつつ一人一人が球を打つ。「二打で入った」

金地利鳴り

「出た。その瞬間の声、顔、身振り、「喜ばない」となるとした面白い親技である。
ホールインワンもなかなか入らないのが常である。それでもたまには、それが出るうれしいものである。また、明日の身体のリハビリ運動だと思つて皆と続けたと思つています。皆さんも始めてみませんか。
(押水町)

病息災で楽しむ
龍橋澄子 84歳

◇「医者不養生」そのままだに五十二歳の世を主人は去つて行つた。今から四十年前であつた。申し訳ないけれど、妻の私は八十四歳の現在、今年の夏も至極元気です。自転車でほとんど毎日グラウンドゴルフ通いである。

あれから世の中すっかり変わつてしまつて、特に年寄りに対しての思いやりと健康が長寿王国を招いた原因ではないかと思う。政府が医療費を補助して下さつても我慢して病院へ行かない年寄りも知手と足を動かしている。長寿はお金や薬だけでは保てない。心から現在の自分に対する感謝し、楽しむ事だと思つている。
(志賀町)

奈良県三重県読売会エコプロジェクト

奈良県三重県読売会

廃食油の回収から植樹まで 循環型リサイクル活動に取り組む

●実施期間

平成20年3月～

●実施地域

奈良県全域及び三重県伊賀地区

●活動概要

奈良県三重県読売会では平成20年3月から、「菜の花・バイオマスプロジェクト」に協賛し、バイオマス（廃食油）の回収をしている。

20年4月から21年3月までの1年間で1万2,543リットルのバイオマスを回収した。バイオマスを使った燃料を使用すると、CO₂排出量を抑制できるため地球温暖化の防止となる。その他の活動として、21年3月には、遊休農地の再利用に取り組む奈良県桜井市狛・岩坂地区の山里プロジェクトに協賛し、読売会の所長らが桜を植樹するなど循環型リサイクル活動を積極的に実施している。

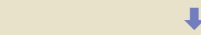
*

奈良県三重県読売会＝奈良県全域、三重県名張市、伊賀市の読売新聞系統の49販売所で組織。奥田吉隆（おくだ・よししたか）エコプロジェクト担当。

■菜の花バイオマスプロジェクト会議奈良への参画

*「菜の花バイオマスプロジェクト会議奈良」とは？

産・官・学・民が一緒になって、循環型社会の推進を目指すとする会議
議長…岩本廣美（奈良教育大学教授）
委員…奈良県、奈良教育大学、NPO、企業、社会福祉法人など
内容…廃食油をBDFに変換させる
菜の花を育て、なたね油を精製する



これらを行うことで、資源の循環サイクルをつくる
「菜の花プロジェクトを奈良全県に定着させる」



販売店向け会報「販売トピックス」 平成21年8月1日付

■YC廃食油回収ステーション開始



平成20年4月1日～奈良県内のYC 22店舗で開始
黄色いのぼりが目印（各YCに設置）。



中には、一斗缶で持ってくる人も



上戸で受ける。ストックが便利

■今後の展開予定

廃食油回収からエコステーションへ

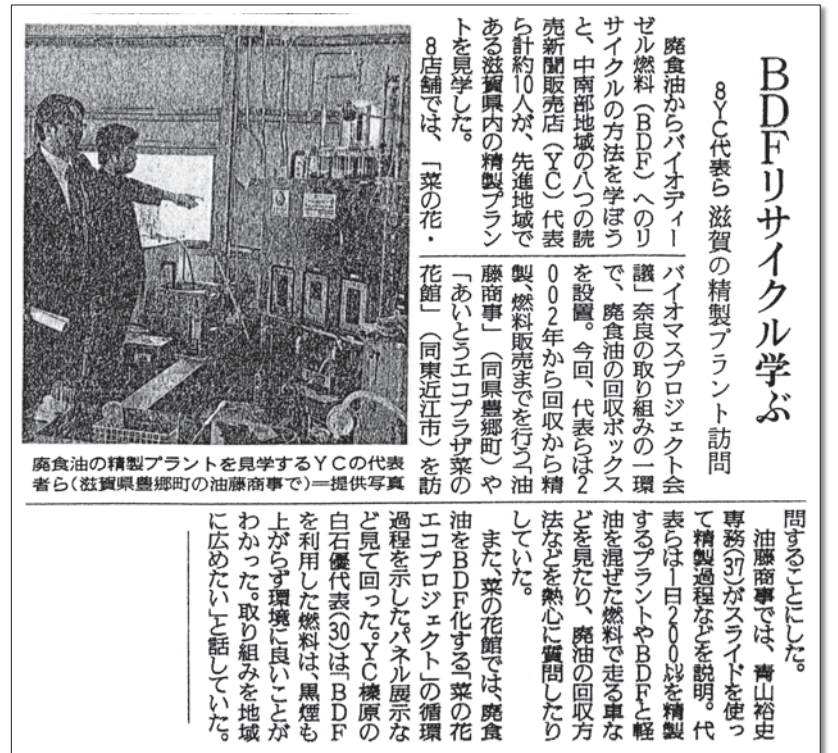
- YCが地域になくてはならない存在に
- 誰もが立ち寄るYCに
- ➡新聞の購読につながる取り組みを

菜の花栽培・桜の植樹などエコへの取り組み

- 読者とともに作る、読売菜の花畑
- 幼稚園、小学校などの校外学習に利用してもらう
- 観光スポットに……マスコミへの露出
- ➡循環への取り組みを通して、読売をPR

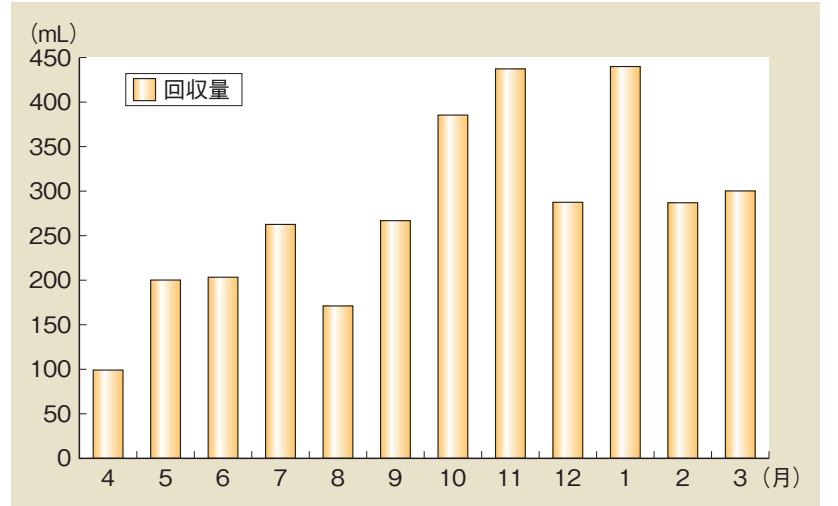


平成21年8月22日 ひまわり観賞会



読売新聞 平成20年6月5日付朝刊

■平成20年度廃食油の月別回収量



地域と育てたヒマワリ大輪 桜井のエコプロジェクト



奈良県三重県読売会と「さくら」の連携プロジェクトとして、桜井地区の遊休農地を活用し、ヒマワリを育てていく。今年6月に種をまいて育てていた。観賞後は地元の方々から流しもらう人が増え、交流を深めた。「地域の方々との交流を深める場であり、今後も積極的に参加したい」と上山融会長は話していた。

（林大輔担当）

販売店向け会報「販売トピックス」 平成21年10月1日付